

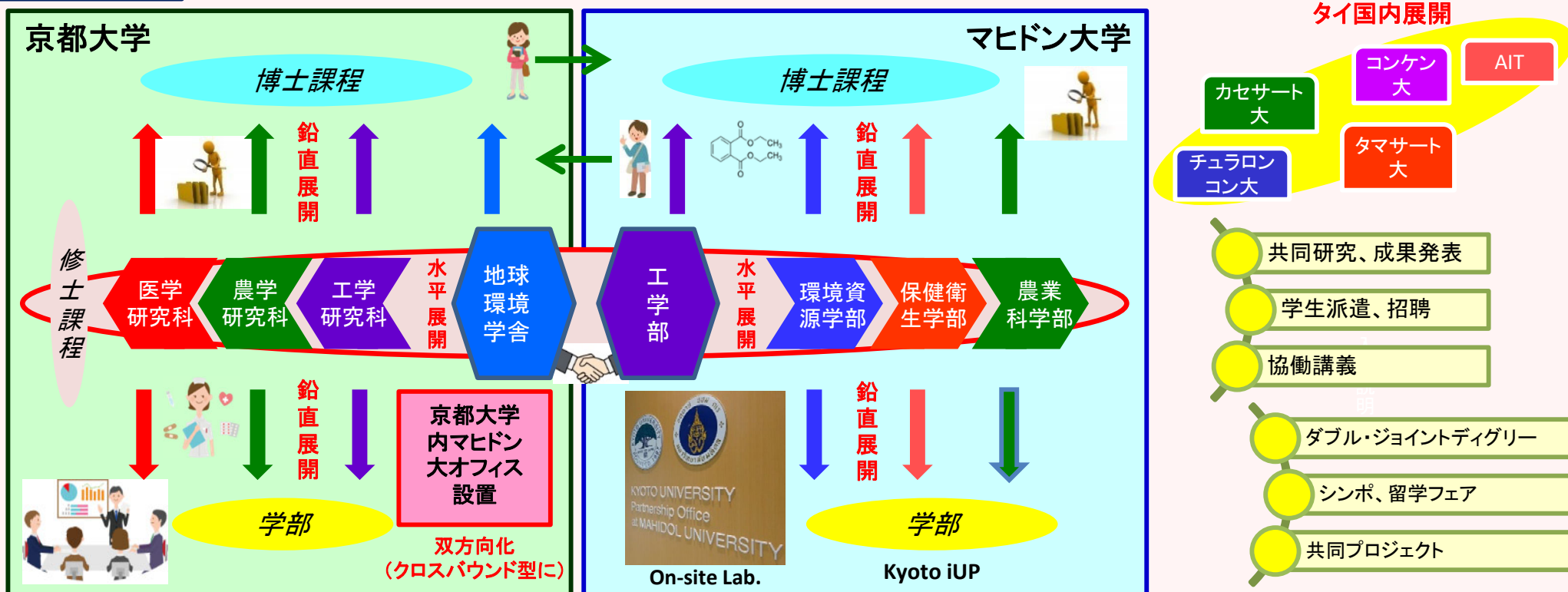
基本情報

- ◆ 認定年度: 2018(平成30)年
- ◆ 設置時期: 2019(平成31)年3月
- ◆ 実施部局: 地球環境学堂、共同実施部局: 工学研究科・農学研究科・医学研究科(当初は地球環境学堂単独実施であったが、2020年度から共同実施)
- ◆ 相手方機関: マヒドン大学(タイ)
- ◆ 設置タイプ: アウトバウンド型
- ◆ 設置目的: 日タイの環境問題の解決を目指すとともに、次世代を担う研究者・技術者・高度実務者を養成する。
- ◆ 設置場所: マヒドン大学(タイ・バンコク)
- ◆ 活動内容: 環境学について共同で教育研究活動を行う。優秀な留学生の獲得や国際共同プログラムへの発展が期待できる。

活動による大学全体への波及効果

- 現地企業も含めた国際共同研究進展
 - 優秀な留学生獲得
 - 現地学生への教育・研修の提供
 - 国際共同学位(JD・DD)プログラム発展
 - 文理融合の促進
 - クロスバウンド型への発展
- 【2018～24年度主要活動実績】
- 毎年度オンサイトラボワークショップ(第1回(2019/3/8)、第2回(2019/11/25 京大)、第3回(2020/3/11 Online)、第4回(2020/11/27 Online)、第5回(2022/3/11 Online)、第6回(2023/3/29 Online)、第7回(2024/2/23)、第8回(2025/2/21))を開催。京大国際シンポ(2020/11/30-12/1 Online)を主催。
 - 地球環境学舎は2016年度、医学研究科健康社会系専攻は2019年度、農学研究科は2022年度ダブルディグリー(DD)を締結。2025年3月末累計で、地球環境学舎では京大生1名、マヒドン大学生13名が、農学研究科では京大生1名、医学研究科ではマヒドン大学生2名が参加あるいは参加予定。
 - 2018～19年度、マヒドン大学から17組52名、京大から15組57名が各々訪問。2020-22年度は新型コロナにより交流が大きく制限され、マヒドン大学から7組9名、京大から1組1名のみ。23年度は、京大からのべ9組30名、マヒドンより6組19名、24年度は京大からのべ4組16名、マヒドンより2組17名。
 - 協働講義、共同研究、共著研究発表、インターンシップ等を実施。

活動概要



2024年度の主な活動実績

①シンポジウム・ワークショップ

- 第8回オンサイトラボラトリーワークショップ(2025/2/21): マヒドン大Salayaキャンパスとオンライン併用: 京大とマヒドン大を中心に研究者・学生ら159名(現地参加62名、オンライン97名)が参加。まず河野泰之京大副学長, 田中千尋地球環境学堂長, Thanapat工学部長の挨拶があり、この後、「環境工学」、「化学工学」、「農学・生態系」、「公衆衛生」の4つの分科会に分かれ、研究紹介と共同研究・教育のための討議が行われた。その後、各分科会からの報告と総合討論の総括セッションが実施され、今後の研究・教育活動の展望について議論が交わされた。また、ダブル・ディグリープログラムを経験した学生やマヒドン大と共同研究を行う本学学生の体験談が共有され、活発な議論が展開された。最後はKorporn Panyim工学部副学部長と西前出副学堂長による閉会の辞をもって終了した。
- 2024年12月3日開催の京都大学国際シンポジウム(地球環境学堂主催、カンボジア・王立農業大学を主会場に、オンラインとの併用によるハイブリッド)で、マヒドン大学から、1件のPoster発表(京大との共同発表)があり若手研究者・教員に与えられる優秀Poster発表賞を受賞した。
- KU-MU-CU Research Progress Seminar(2024/9/24)に修士学生3名を派遣した。このワークショップはChulalongkorn University(バンコク)で開催された化学工学に関するワークショップで、京都大学とマヒドン大学、チュラロンコン大学等から参加があり、活発な討議が行われた。

②学生の交流・学位プログラムを実施

- 地球環境学堂(2016年11月マヒドン大学(MU)工学研究科)、医学研究科社会健康医学系専攻(2019年2月MU公衆衛生学研究科)に続き、農学研究科で2022年7月にMUカンチャナブリキャンパスとダブルディグリー(DD)を修士課程(MC)で締結した。工学研究科(MU工学研究科)、農学研究科(MU理学部)でも締結に向けた準備を進めている。さらに、2024年3月に地球環境学舎とMU公衆衛生学部の間で部局間学生交流協定を締結。
- MU工・土木環境工学専攻修士2021年8月入学のDD生2名が、MUのMCを修了(京大地球環境学舎MCは前年度に修了)。
- MU工・土木環境工学専攻修士2022年8月入学のDD生2名が来日し、2023年4月京大地球環境学舎MCに入学。2025年3月に京都大学を修了。
- MU工・土木環境工学専攻修士2023年8月入学のDD生2名が来日し、2024年4月京大地球環境学舎MCに入学。2025年3月末に帰国。
- MU工・土木環境工学専攻修士2024年1月入学の学生2名を2025年4月京大地球環境学舎MC入学生として選抜。1年間の滞在予定。
- 農学研究科の修士課程学生1名を現在MU農学部(2025年1月13日～)に派遣。
- 化学工学専攻を中心としたマヒドン大学、チュラロンコン大学、タイ王立ナノテクノロジー研究センターとの共同研究が2024年度のJSTのNEXUS(若手人材交流プログラム)に採択された(交流支援期間は1年間)。

③共同研究成果を国際共著として発表

- 両大学の共同研究の成果を、査読論文で3編、国際共著として発表。